

平成29年3月31日
経理部会計課

独立行政法人国際交流基金 契約監視委員会(平成28年度第3回)

議 事 要 旨

1. 日時: 平成29年3月23日(木)14:00-16:10
2. 場所: 独立行政法人国際交流基金9階第2セミナー室
3. 出席者:
 - (1) 委員
渡邊一弘委員長、宮本和之委員、山本裕子委員、鴨志田文彦委員
 - (2) 国際交流基金
安藤理事長、櫻井理事、貴島総務部長、古屋経理部長、清水監査室長、平林会計課長、審議案件担当者
4. 主要議事:
 - (1) 再委託案件、一者応札・応募案件について(報告)
 - (2) 個別案件(全5件)(審議)
 - (3) 調達等合理化計画(平成28年度自己評価及び平成29年度計画策定)(報告)
5. 主要議事概要:
 - (1) 再委託案件、一者応札・応募案件について(報告)

今回の第3回委員会対象期間中の案件のうち、再委託案件(該当案件なし)及び一者応札・応募案件(1件、審議対象案件2番に該当)について事務局より報告。

基金: 当年度の累計では、これまでに締結した競争性のある契約 178 件のうち、10件が一者応札・応募案件に当たる。

委員: 一者応札・応募理由として「②限られた期間の中で業務を行うため人員等の確保が困難であることから、履行可能な者が限られた」が散見される。公告期間については、基金側で調整可能な事柄である。競争性を高めるために、前広に対応するよう、検討いただきたい。
 - (2) 個別案件の審議(案件一覧は別紙の通り)

ア. 関西国際センター中央監視装置更新工事契約

基金：本件工事の仕様作成をコンサルタント業者に依頼したところ、現行機器メーカー以外は対応不可との見解が示されたため、複数による競争が可能か否かを公募によって確認した。

公募に対し、現行機器メーカーに加えもう1者、計2者から書類提出を受け、審査を行った結果、両者とも要件に適合することが認められたため、2者による指名競争入札へ移行した。入札の結果、現行機器メーカーが調査基準価格を下回る金額で応札したため、書類審査・インタビューによる低入札価格調査を実施。自社製品の優位性から、廉価での応札が可能であり、契約締結に問題がないことを確認した。

委員：公募を経て、指名競争入札へ移行した経緯につき了解した。こうした事例は多いのか。

基金：公募に対し、複数者が応募する事例は珍しい。

委員：競争性を確保するという点において、本件はよい事例と言えるだろう。

委員：予定価格は現行機器メーカーの参考見積を元に作成したのではないか。調査基準価格を下回ったのは何故か。

基金：機器本体については現行機器メーカーから徴取した参考見積を根拠とし、管理費等は市場価格を基に積算した。参考見積と、競争相手のある入札額との間には開きがあるのが一般的である。

イ. 「Japan Film Festival アジア・パシフィック・ゲートウェイ事業」マーケティング等業務委託契約

基金：アジア各国で行われていた日本映画祭を1つにブランド化し、戦略的に広報を行うべく、主にマーケティング業務・イベント運営業務・オンライン制作業務の3点を委託する内容。競争参加資格として、2か国語以上のオンライン制作、海外イベント運営実績、アセアン諸国に拠点を有すること、を挙げたところ、結果的に一者応募となった。

委員：一者応札を避けるには、別種の3つの業務内容を分けるべきではないか。また、ゴールデンウィークを挟み、公示期間が短かったのではないか。

基金：ブランド化、また、効率化の観点から、3分野をまとめて企画競争を行った。広告業界の場合、イベント自体の実施も含め包括的に委託を受けることもあるが、本件の場合、映画祭実施部分は当基金の各拠点が担っている。もし、応札者がいなかった場合、業務を分割、または予算上限を引き上げるなどの対応が考えられる。公示期間についてはご指摘の通りであり、今後留意したい。

委員：公示時点の予算上限が40,000千円(税抜)に対し、予定価格が49,000千円(税抜)となっている。予定価格の位置付けを確認したい。

基金： 予定価格は市場価格の積算、または基金側で実施した場合にかかる経費との認識。企画競争時は公募前と、相手方・仕様が決定した段階で、2 回作成している。相手方の提示企画内容を受け、過去の同内容の業務や市場価格等に照らして再作成した予定価格が 49,000 千円だった。

委員： 3 つの業務をまとめて委託することで、個々の経費を積み上げるよりも、価格を抑えられるという観点はないのか。予定価格を高めを設定すると、落札率が低くなり、見た目はよいが、公正な情報開示の観点からよろしくない。

基金： ご指摘の通り、予定価格を積算する際に、専門業者にまとめて外注する場合の割引率等については引き続き検討を行いたい。

ウ. 平成28年度日本祭り開催支援(米国)全米桜祭り渡航に係る国際航空券等手配業務委託契約

基金： 本件は全米桜祭りのオープニングに参加する公演団の国際航空券手配・渡航手続き業務一式。入札金額は予定価格に対し 5%強高く、再度入札日程を組む間に航空券の手配が難しくなるため、随意契約に移行。予定価格は航空会社ウェブサイト提示額とオンライン旅行ウェブサイトの価格の平均値で積算したが、ウェブ価格は時期による変動が大きく、ウェブ価格が廉価な時に作成した予定価格が、入札日時点の市場価格よりも低くなった。

委員： 早めに調達すれば安く抑えられるのではないか。公演日程に対し、航空券手配が遅いのではないか。

基金： 渡航日に近くなるにつれ、航空券は高くなる傾向にあり、また、大人数の公演団の場合、座席確保のため、前広に対応したいものの、公演団員の確定や公演日程の他、関連イベント、現地関係者との意見交換会など、各種調整の都合で、入札のタイミングが遅くなってしまう傾向にある。

委員： 年間包括契約を締結すれば、個別に入札せずに済むのではないか。

基金： 年間である程度の派遣・招へい数の計画が立てられる部署では包括契約を締結しているが、公演については、単発であり、行先やロットが未定で、直前にならないと仕様が確定しないため、個別に調達している。

委員： 予定価格の設定の難しさは承知している。合理的な説明ができるように引き続きご留意いただきたい。

エ. 「経済連携協定(EPA)に基づくインドネシア人・フィリピン人看護師・介護福祉士候補者に対する訪日前日本語研修」のための日本語講師募集広報強化業務委託契約

案件審議に入る前に、EPA協定に基づく日本語研修の変遷及び現状、日本語教師を取り巻く状況、国家試験概要及びEPA候補者に対する優遇措置等につ

いて説明。また、本件成果物の広報用映像を上映。

基金：訪日前研修で受け入れる看護師・介護福祉士候補者数の増加に対し、日本語教師を必要数確保することが難しい現状のため、広報強化を行うべく、ウェブサイト整備、広報映像作成、ウェブ広告、チラシ・ポスター編集業務の企画競争を実施。4 者応募を受け、評価項目に沿って採点し、評価点が最も高い業者を委託先とした。抽出理由の落札率の高さについては、公募前に委託経費概算を予定価格として設定し、当該価格を予算上限額として提示しているため、予定価格と契約金額が近接した結果である。

委員：評価基準、点数等の足切りはあるのか。

基金：評価項目、採点方法は説明会で提示している。本件は足切りの設定はない。

委員：企画競争は評価項目、配点が肝要だが、案件ごとに変えているのか。

基金：評価項目や配点は、案件ごとに異なる。本件の場合、アジアセンター日本語パートナーズ広報強化業務委託契約を先行例として参照しつつ、評価項目等を設定した。金額だけでなく、企画内容を重視した配点となっている。

オ. ジャポニズム事務局移転に伴う間仕切・什器備品等関連業務

基金：本件は一部署移転に伴う、間仕切設置・新規什器調達・移転関連業務一式。移転関連業務にはビル管理会社、電気、電話、LAN 等関連業者との調整、定例会議の開催等も含む。指定仕様・タイトなスケジュールの理解度を図るため、二段階選抜方式を採り、書類審査通過 4 者が応札したもの、いずれも予定価格を超過し、随意契約に至った。説明会にて仕様詳細を提示したにも拘わらず、主に移転関連業務部分で、基金側と応札者との間で認識の齟齬があり、予定価格と入札金額に開きが生じた。

委員：電話や電源、LAN 工事も本件仕様に含まれるか。

基金：電話、電源、LAN は別途専門業者に依頼している。本件業務にはこれら専門業者との連絡調整、定例会議の開催業務を含む。

委員：審議案件 1 番の公募と、本件二段階選抜の違いは何か。

基金：公募は相手方が複数存在するか否かの確認。二段階選抜は相手方が複数存在することを前提に、事前書類審査を設定し、入札への参加可否を判断する方式である。

委員：引越料金は時期によって金額が変動する。予定価格超過理由は時期的な要因も考えられるか。

基金：応札業者からは時期的な要因は聞いていない。

委員：3種の業務を分けて入札した方が、それぞれの業務に特化した専門業者が廉価で応札できるのではないか。

基金：分けるより、一括で委託した方が管理費等を抑えられる。また、本件は短期間

に同時並行で行う必要のある複合的な業務だったため、効率性を求め、3種まとめて一式とした。

委員：入札時には効率性及び価格の観点から、委託業務の範囲、分割するか、まとめるかを検討いただきたい。

(3) 調達等合理化計画(平成28年度自己評価及び平成29年度計画策定)(報告)

総務省提示の雛形を基に、基金が年度毎に調達等合理化計画の策定及び実施後の自己評価を行い、契約監視委員会による点検、公表するプロセスを説明。雛形に沿って、契約状況、一者応札・応募状況、重点的に取り組む分野、調達改善・事務処理の効率化、調達に関するガバナンスの徹底等について、現時点での平成28年度自己評価案及び平成29年度計画案を報告。28年度終了後に実績・実施結果、29年度計画をとりまとめ、平成29年5月頃に各委員に送付するので、点検をお願いしたい旨を事務局から依頼。委員からの質問・コメントは特になし。

以上

平成 28 年度第 3 回契約監視委員会 抽出案件一覧

	契約名称	契約の相手方	契約方法	契約金額	担当部署
1	関西国際センター中央監視装置更新工事契約	アズビル株式会社	一般競争	25,920,000 円	関西国際センター 教育事業チーム
2	「Japan Film Festival アジア・パシフィック・ゲートウェイ事業」マーケティング等業務委託契約	株式会社 ADK インターナショナル	企画競争	43,200,000 円	アジアセンター 文化事業第 1 チーム
3	平成 28 年度日本祭り開催支援（米国）全米桜祭り渡航に係る国際航空券等手配業務委託契約	国際サービスエージェンシー	入札不調 随意契約	2,585,560 円	文化事業部 事業第 1 チーム
4	「経済連携協定（EPA）に基づくインドネシア人・フィリピン人看護師・介護福祉士候補者に対する訪日前日本語研修」のための日本語講師募集広報強化業務委託契約	株式会社文化工房	企画競争	8,636,760 円	日本語事業部 事業第 1 チーム
5	ジャポニズム事務局移転に伴う間仕切・什器備品調達に係る契約	株式会社サンポー	入札不調 随意契約	15,649,200 円	経理部会計課